

柳生運河（柳生川）

羽根井校区の南側を東から西へ柳生（やぎゅう）川が流れています。羽根井校区と福岡校区の境にある小池橋から牟呂にある河口までは「柳生運河」と呼ばれています。幅が約30～40メートルあり、両側に高潮堤防が続いています。

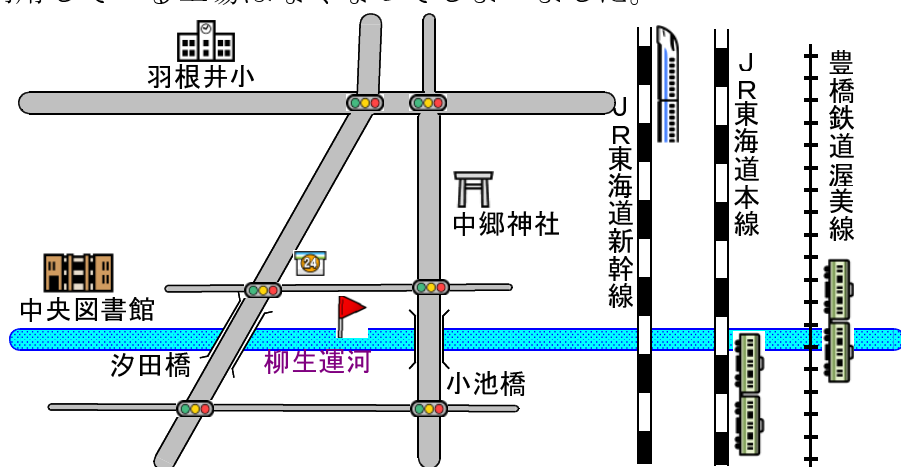
今でこそほぼ直線に川が流れていますが、昭和初期までは川幅はせまく、曲がりくねった川で、大雨が降るとはんらんすることもしばしばあったそうです。そこで、地元の人々が話し合い排水をかねた運河計画がすすめられました。昭和8年に工事が始まり、昭和11年にしゅん工式が行われました。

しゅん工式が終わると石炭を運ぶ船が出入りし、運河としての役目が開始されたそうです。当時柳生運河の近くには、たくさんの製糸（せいし）工場がありました。製糸工場では石炭が使われていましたが、柳生運河ができるまでは豊川から陸あげされ運ばれていましたが、運河の完成によって工場の近くで陸あげができるようになりました。



昭和12年ごろからは飼料工場などもでき、運河を利用して飼料の原料や燃料用の石炭を荷あげしていました。

繊維（せんい）業がすい退し始めると、運河沿いにあった製糸工場は姿を消し始めました。飼料工場も移転し工場のあと地もマンションや住宅などに変わっていきました。運河を利用している工場はなくなってしまいました。



〈参考資料 』豊橋校区史 44 羽根井』

羽根井小 中野 敦生

